



美味しい時間は旅と共に

世界には音楽と同じく様々な食文化があります。
日本国内でも今やたくさんの国の料理を食べることができますが、
旅先で味わう本場の料理の味わいは、全く異なるのではないのでしょうか。

旅行には様々な楽しみがありますが、その中で食事は特に大事な要素です。
各地の美味しい料理は、旅行から帰った後も忘れられないものです。
みなさんも世界の料理を食べにいきませんか？

私たちJTBは美味しい時間を過ごす旅のお手伝いをいたします。

(株)JTB大阪第二事業部

〒541-0056
大阪市中央区久太郎町 2-1-25 (JTBビル12階)
TEL.06(6260)0150(代) FAX.06(6260)0178
担当:岡田 悠

- 1 大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023報告
- 6 コンクール2023審査委員 鼎談
- 9 きゅっきゅぼんが行く!「コンクール&フェスタ2023 体験レポ」
- 11 クアルテット・インダコ インタビュー
- 15 楽器で旅する世界 vol.2「イタリア」
- 17 作曲家の部屋 vol.2 ベートーヴェンとウィーン
- 19 国際音楽コンクール世界連盟総会 in 浜松 レポート
- 21 室内楽誕生! エピソード vol.1 末広がりの八重奏



堤 剛
コンクール審査委員長
チェロ/サントリー芸術財団代表理事

今回も応募団体の水準が高いと感じました。予備審査もとても大変だった、と言っていいと思います。予備審査の映像を聴きながら、私たちはどのグループを選ぶか、その時点からとても悩みました。

そして、今回来ていただいた33団体の演奏を耳にして、「若さって素晴らしいな」「室内楽って素晴らしいな」という気持ちを強く持ちました。若さの持つエネルギー、情熱、音楽に対する愛が演奏に表れていて、私たち審査委員も非常に心を動かされました。

また、世界トップレベルの審査委員に大阪に来ていただけたことは、今回の成功の一つの要因だったと思います。私は、どのような審査委員がコンクールに来るかによって、そのコンクールの価値が変わってくるのではないかと考えています。

また、大阪から世界へ発信するという、国際交流という意味でも大きな貢献ができたことに感謝申し上げます。

最後に、私が非常にうれしかったことは、お客様が多かったことです。演奏家にとって聴衆が温かく見守って下さるといふサポーター的な環境はとても大切な宝であると思います。

開催にあたり多くのご支援をいただき、ありがとうございました。



呉 信一
フェスタ審査員長
トロンボーン/京都市立芸術大学 名誉教授

皆様の琴線に触れる演奏には出会えましたでしょうか？

今回も多彩なアンサンブルが集いました。世界各地の民族音楽、クラシック音楽のアンサンブルなど、楽器編成、曲目などどれ一つとして同じものはありませんでした。

「大阪国際室内楽フェスタ」といえば、全ラウンド一般審査員による審査です。これは世界にも類を見ない方法だと思いますが、今回初めての試みとして、富山と三重で1次ラウンドを開催しました。この素晴らしい室内楽の祭典を大阪だけに留めておくのではなく、広く日本の室内楽愛好家の皆様と共有できればとの思いから、3か所で実施いたしました。大変大きな反響をいただき、3日間でのべ580名の一般審査員のご応募がありました。初めて参加される方も多く、この試みは成功だったと言えるのではないのでしょうか。審査員長として、一般審査員としてご参加いただきました皆様、鑑賞に訪れてくださいました皆様に御礼申し上げます。また、開催に向けてご協力いただきました富山県高岡文化ホール、三重県文化会館の皆様にも感謝申し上げます。

次回はどのようなアンサンブルが参加してくれるのでしょうか。3年後が、今からとても楽しみです。

特別番組として放送されました！

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023の様子が、読売テレビの特別番組として放送されました。予選から本選まで、リハーサルやバックステージ、参加団体へのインタビューなどの様子が、2週にわたって特集されました。

読売テレビ (10ch/関西ローカル)	1	「大阪国際室内楽コンクール 2023」 6/13(火) 26:04~28:19	
	2	「大阪国際室内楽フェスタ 2023」 6/20(火) 25:59~27:56	

現在、YouTubeで番組をご覧いただくことができます。

世界各地から13か国33団体が参加！

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023 開催報告



2023.5/12(金)▶18(木) 住友生命いずみホール

フェスタ1次ラウンド **5/13(土)** 富山県高岡文化ホール 披露演奏会 **5/19(金)** 住友生命いずみホール
14(日) 三重県文化会館 **21(日)** 東京・サントリーホールブルーローズ

新緑の映える5月中旬、大阪・富山・三重を舞台に「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」が開催されました。

2020年に開催を予定していた第10回のコンセプトを継承し、新たに参加団体を募集。

世界各地から34か国161団体の応募があり、予備審査を経て13か国33団体が大阪に集いました。

主催：公益財団法人 日本室内楽振興財団
共催：[フェスタ1次] 公益財団法人富山県文化振興財団/公益財団法人三重県文化振興事業団
後援：外務省/文化庁/大阪府/大阪市/関西経済連合会/日本演奏連盟/大阪ビジネスパーク協議会/住友生命いずみホール/読売新聞社
協賛：岩谷産業/大阪ガス/大林組/鹿島建設/きんでん/サントリーホールディングス/清水建設/住友生命/積水化学工業/千趣会/ダイキン工業/大成建設/
竹中工務店/東芝インフラシステムズ/ハウス食品グループ/非破壊検査/フジテック
賛助：読売テレビ
提携協力：ボルドー弦楽四重奏フェスティバル/ストリング・カルテット・ピエンナーレ・アムステルダム/VdSQ & Festival4 (www.vdsq.de)
特別協力：一般社団法人MK記念会

コンクール 第2部門 ピアノ三重奏／四重奏

第2部門は毎回対象の編成が変わり、今回はピアノ三重奏とピアノ四重奏が一つの部門で演奏を披露しました。2023年はピアノ三重奏にとって、大阪、メルボルン、ミュンヘンと、メジャーなコンクールが2か月おきに開催されることもあり、世界的にも稀に見る高水準での演奏が繰り広げられました。ピアノ四重奏はピアノ三重奏と比較して常設団体が少ない編成ですが、2団体が参加しました。

第1位



MK記念会特別賞 カピバラ・ピアノ・クアルテット (ドイツ)

Capybara Piano Quartet, Germany

マリオ・ヘリング……………ピアノ
岡田 脩一……………ヴァイオリン
近衛 剛大……………ヴィオラ
ミンジ・キム……………チェロ



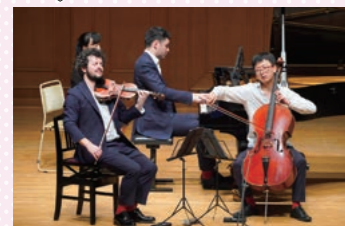
ヨーロッパ各地から集まった4人の若手ソリストの出会いから誕生したピアノ四重奏団。メンバーそれぞれがソリストとしても国際コンクールで入賞するほどの名手。3名が日本にルーツを持つメンバーであり、今後の日本での演奏活動も期待される。

2024年秋開催
グランプリ・コンサートに
出演します!

第2位

トリオ・パントウム (フランス)

Trio Pantoum, France

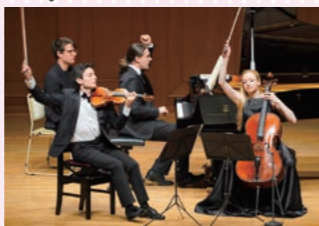


ヴィオジル・ロッシュ……………ピアノ
ヒューゴ・メデル……………ヴァイオリン
ボーゲン・バク……………チェロ

第3位

トリオ・ミケランジェリ (ドイツ)

Trio Michelangeli, Germany



リカルド・ガリアルディ……………ピアノ
パオロ・タリアメント……………ヴァイオリン
アレサンドラ・ドネリ……………チェロ

特別賞

MK記念会特別賞

カピバラ・ピアノ・クアルテット (ドイツ)

コンクール各部門の第1位に賞金50万円が授与されました。

コンクール 第1部門 弦楽四重奏

第1回の開催時より、第1部門は室内楽の柱ともいわれる弦楽四重奏を対象として開催しています。課題曲は2020年から継承し、ベートーヴェンの前期・中期・後期が大きな柱として置かれました。また3次予選では望月京氏へのコンクール委嘱作品《Boids again》を演奏。同じ曲であってもそれぞれの団体の個性が光る演奏が記憶に残ったのではないのでしょうか。

第1位



MK記念会特別賞/ストリング・クアルテット・ビエンナーレ・アムステルダム賞

クアルテット・インダコ (イタリア)

Quartetto Indaco, Italy

エリオナ・マツノ……………ヴァイオリン
イダ・ディ・ヴィータ……………ヴァイオリン
ジャミアング・サンティ……………ヴィオラ
コジモ・カロヴァニ……………チェロ



イタリアの太陽のように陽気で朗らかな笑顔が印象的な団体だった。演奏に込められた情熱と洞察は、すべてのラウンドにおいて、そして予備審査のビデオからも強いメッセージとなって届いていた。

▶P11-13にインタビューが掲載されています。

2023年11月開催
グランプリ・コンサートに
出演します!

第2位

大阪国際室内楽コンクール2023アンバサダー賞

ほのカルテット (日本)

HONO Quartet, Japan



岸本 萌乃加……………ヴァイオリン
林 周雅……………ヴァイオリン
長田 健志……………ヴィオラ
蟹江 慶行……………チェロ

第3位

テラ弦楽四重奏団 (アメリカ)

Terra String Quartet, USA



ハリエット・ラングリー……………ヴァイオリン
アメリア・ディートリック……………ヴァイオリン
ラモン・カレロ・マルティネス……………ヴィオラ
オードリー・チェン……………チェロ

特別賞

MK記念会特別賞

クアルテット・インダコ (イタリア)

コンクール各部門の第1位に賞金50万円が授与されました。

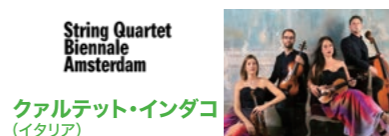
ボルドー弦楽四重奏フェスティバル賞

ストリング・クアルテット・ビエンナーレ・アムステルダム賞



タレイア・クアルテット (日本)

第1部門に参加している弦楽四重奏から1団体に授与されました。2024年5月14日から23日に開催される「ボルドー弦楽四重奏フェスティバル」に参加して、マスタークラスの受講やコンサートへ出演します。



クアルテット・インダコ (イタリア)

第1部門で第1位を受賞した団体に授与されました。2024年1月27日から2月3日アムステルダムで開催される「ストリング・クアルテット・ビエンナーレ・アムステルダム」に出演します。

大阪国際室内楽コンクール2023
アンバサダー賞



ほのカルテット (日本) マリオン・クアルテット (ドイツ) モーザー弦楽四重奏団 (スイス)

コンクールに参加している団体から1団体に授与予定でしたが、審査委員会の総意により、3団体に授与されました。VdSQ&Festival4 (www.vdsq.de) が2024年12月13日から14日に開催する室内楽フェスティバルに、本コンクールのアンバサダーとして出演します。



大阪チェンバーミュージック・ホライズン2023

室内楽の祭典として発信すべく、大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023参加団体が住友生命いずみホールを飛び出し、地域と協働したコンサートを開催しました。

読売テレビ 10 plaza

5/15(月) 12:00開演

出演: ラサ弦楽四重奏団(アメリカ)



入場無料、予約不要
主催: 公益財団法人日本室内楽振興財団、
読売テレビ

今福音楽堂

5/15(月) 19:00開演

出演: アスト・クアルテット(ドイツ)
トリオ・ガイア(アメリカ)

16(火) 19:00開演

出演: ウェルテル・ピアノ・クアルテット(イタリア)
アルベニス・トリオ(オランダ)

17(水) 19:00開演

出演: トリオ・シャガール(スイス)
モーザー弦楽四重奏団(スイス)

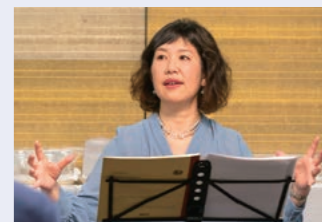
各日一律500円

主催: 公益財団法人日本室内楽振興財団、一般社団法人Reise



作曲家 望月京氏とのディスカッションセッション

3次予選前日の5月15日、課題曲委嘱作曲家である望月京さんをお招きし、各団体25分ずつのディスカッションセッションを開催しました。3次予選進出団体は、このディスカッションセッションで作曲家への質疑応答や試演により曲への理解を深め、本番に挑みました。現代の作曲家の作品を課題曲として取り入れる意義を深く感じる時間となりました。





—2023年5月19日 住友生命いずみホールロビーにて—左からモニカ・ヘンシェル、エッカルト・ハイリガース、アラスデア・テイト

大阪国際室内楽コンクール審査委員特別鼎談

卒業生審査委員が
見た大阪

2023

エッカルト・ハイリガース
(トリオ・ジャン・ポール)

モニカ・ヘンシェル
(ヘンシェル・クアルテット)

アラスデア・テイト
(元ベルチャ・クアルテット)

聞き手：渡辺 和(音楽ライター)
通訳：花田和加子

ハイリガース…シューベルトの変ホ長調
このコンクールが始まった90年代の半ば、歴々大阪大会のレパートリーはベートーヴェンと大曲に偏りすぎでは」という批判も受けたものだった。参加当時はアンサンブル結成から数年たったかつての若者たちは、あの過酷な挑戦をどう感じていたのか。

スタートから30年、10度目の開催となった大阪国際室内楽コンクール&フェスタを訪れた数多くの音楽家の中に、とりわけ特別な感慨を抱いて住友生命いずみホールの客席に座った3人がいた。トリオ・ジャン・ポールの前奏者として30年前のステージに立ったエッカルト・ハイリガース、27年前から現在までヘンシェル・クアルテットでヴィオラを弾くモニカ・ヘンシェル、ベルチャ・クアルテットのチェロ奏者として23年前に大阪を経験し、今は若手演奏家育成トラス最高責任者という重責を担うアラスデア・テイト。皆、コンクール部門優勝者である。かつて自分も踏んだ舞台で、将来への夢と運命を賭けた若者らの熱演に真摯に対面する1週間を過ごし、全ての結果を確定させた翌朝、住友生命いずみホールのロビーに集まった「大阪大会卒業生」たちは、前日までの緊張感も解け和気藹々とした同窓会の空気。とはいえず、鼎談の内容は気楽な昔話とは些か違うものとなってしまったかも。



フェスタ



フェスタは2~6名の自由な楽器編成で、課題曲が無く審査は一般審査員による投票という、他に類を見ない室内楽の祭典。今回も世界各地から応募があり、11か国12団体が大阪・富山・三重の地に集いました。

メニューイン 金賞



フォークロア特別賞/オンライン聴衆賞
テンゲル・アヤルグー(モンゴル)
TENGER AYALGUU, Mongolia

バダルチ・バトオルシフ……ヨーチン
ツェベグスレン・ツェレンバルジル……リンベ
ジュルメドドルジ・ノルドグ……エベルプレー
テムジン・プレブフ……馬頭琴
ムンフエルデネ・エルデネバト……バス馬頭琴
モンゴルからやってきた民族楽器アンサンブルが、今回の賞を総なめに。メンバーはそれぞれが大学でも民族音楽を専門として教鞭を取っている。モンゴルの民族音楽や自作曲、クラシック音楽など、様々な要素がクロスオーバーする演奏を披露。心に沁みる音色が、聴衆を魅了した。



2025年秋
グランプリ・コンサートに
出演します!

銀賞

クインテット・ル・バトー・イーヴル(フランス)
Quintette Le Bateau Ivre, France



サミュエル・カザーレ……フルート
セレナ・マンガナス… ヴァイオリン
ヴァロンタン・チャペロ… ヴィオラ
ケヴィン・ブールダ……チェロ
ジョン・パティスト・エイヤ… ハープ

銅賞

スタス&タチアナ(アメリカ)
Stas & Tatyana, USA



スタス・ヴェングレフスキー……バヤン
タチアナ・クラスノバエヴァ… ダルシマー

特別賞

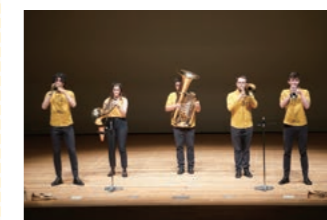
フォークロア特別賞

テンゲル・アヤルグー(モンゴル)
セミファイナル出場団体の中で、伝統音楽・民族音楽に優れた団体に20万円を授与しました。

オンライン聴衆賞 *同点3団体

クワチュオール・エオリーナ(フランス)
テンゲル・アヤルグー(モンゴル)
東京リード・クインテット(日本)
セミファイナル出場団体の中でオンライン聴衆による得票が最も高かった3団体(同点)に対し、総額10万円が授与されました。

初!大阪・富山・三重の三会場で開催!

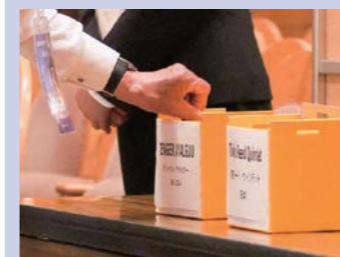


5/13(土)
富山県高岡文化ホール



5/14(日)
三重県文化会館

フェスター一般審査員



第1回の開催時より大阪国際室内楽フェスタでは、公募した音楽愛好家の投票による一般審査を行っています。1次ラウンドは富山・三重、セミファイナル&ファイナルラウンドは大阪でそれぞれ募集し、3日間で延べ約400名が一般審査員として審査を行いました。また、セミファイナルではオンライン審査員も募集し、61名が参加。zoomウェビナー上で演奏を聴き、投票を行いました。

オンライン配信

今回もすべての日程で、オンライン配信を行いました。前回に引き続きYouTubeに加え、第1部門はアメリカのWebメディア ヴァイオリン・チャンネルでも配信されました。配信映像はYouTubeのアーカイブでご覧いただけます。





「一方で、ピアノ三重奏の予選以外にモーツァルトは課されません。
ハイリガース：ピアノ三重奏では、モーツァルト時代の楽器の方が遙かに簡単なのです。ベートーヴェンは奏者どうしが闘い、作品と闘い、音楽に没入せねばなりません。でもモーツァルトでは、そんなやり方は通用しないんですよ。」

は、私たちがトリオを始めて最初に手掛けた作品でした。早い時期で難しい作品に取り組みリスクは必要です。年齢を重ねたからといって、これらの作品に突然飛び込み全てを理解するなど不可能です。」

テイト：いずれにせよ手掛けねばならないのです、早ければ早い程作品との関係を育てられます。」

ヘンシェル：私たちもベートーヴェンの作品127がファイナルの課題曲でした。最初にこの楽譜に対したときの感情は今も記憶しています。私たちはこの作品と共に成長し、理解も深まったとは思いますが、人生をかけた学びでも最終的な決断に至ることはないでしょう。ですから、出来をただ早く始めた方が良くと思います。大阪ではベートーヴェンの違う時期の作品を演奏し、自分らが操る楽器を越えた作業だと思ひ知らされました。」

テイト：私が関わる若手オーディションでも、多彩なレパートリーからモーツァルトの緩徐楽章を30秒聴けば、その人が持つ本心に特別なものまで見えます。今、リンゼイQのピエター・クロッパ氏を思い出していました。」

「ハイドンとベートーヴェンは大地から来て、モーツァルトとシューベルトは天から来る」と仰っていました。奏者としても、ハイドンとベートーヴェンは常に楽器と実際の響きで練習をせねばならない。シューベルトとモーツァルトはときに響きを伝えるのは簡単だったりしますが、靈感と実際の音とのバランスがとても難しい。」

ヘンシェル：ベートーヴェンやハイドンは団体の可能性を示してくれます。でもモーツァルトは、どんなに経験を積んでも自分たちから逃げ去ってしまうことがあるのです。その意味で、コンクールではとても厳しいかも。私は大阪の判断に賛同しますね。」

かつて同じステージでコンクールを制し、プロとして大成した音楽家である。客席中央に座る審査委員としての評価にあたり、過去の経験が影響を与えるものなのだろうか。」

テイト：審査委員として座り、自分が舞台袖を抜けステージに出たときの「これから（抒情組曲）を弾くんぞ」というドキドキが鮮明な記憶として蘇り、参加者のプレッシャーや緊張感に共感することは出来ました。でも、いずみホールはこんなに小さかったのかと感じましたよ。あのときの私たちには、もの凄く巨大な会場に思えたんです。オルガンがあったのも覚えていませんでした。」

ハイリガース：私も記憶ほど大きくないので驚きました。ですが興味深いのは、それぞれのグループがこのステージでどう振る舞うかです。明らかに客席の響きとは違っているので、私たちグループも随分話し合いました。このご彼らがどういう経験を積めるか。」

ヘンシェル：いずみホールが素晴らしいことははっきりしています。私たち審査委員が一次予選で配慮するのは、参加者が短時間でホールのサウンドに慣れねばならない現実です。」



テイト：ここはとても美しいホールですが、いきなりロールスロイスを与えられても運転に戸惑ってしまうものです（笑）。いくつかのグループは、ホールに準備してきたやり方を適合させようとしていました。このような場所でのコンクールは、どの団体にもとても貴重な学習経験でしょう。」

2023年の今、音楽家が集まれば話題はどうしても新型コロナウイルスの影響になつてしまつて。この3人の卒業生も本来ならば3年前に大阪で遇っている筈だった。とはいえ、現実を見据えつつも憂うだけではないのは、心強いかぎり。」

テイト：若いアンサンブルへの新型コロナウイルスの影響は甚大です。グループによっては一年以上も会えないこともあり、「や

る必要があることあつてもやれず、肢体を切断されたようなゴーストペインを感じたと嘆くグループもありました。沢山のグループがメンバー交代をせざるを得なかった。大阪に来られたグループは、やり方を探せたのでしょうか。」

ハイリガース：コロナが終わってひとつ良いことは、音楽学校に学生がどんどん入ってくるようになったことです。音楽という人間の表現への欲求があると感じますね。あらゆるコンクールが延期され、今、一斉に再開しています。次の世代には、より多くの数の音楽家が出てくるかもしれません。」

テイト：私は盆栽を思い出すのです。ある部分をカットし、他の部分により内側での大きなエネルギーをまわす。勿論、世界が以前と同じになるとは思えませんし、そうあるべきではない。今、音楽界の多くの関係者や若い演奏家は、慎重に考えるようになっていま



ヘンシェル：私たちが参加した大阪コンクールは、まだ新しかったですが、今は世界にたくさんあるコンクールの中でも一握りの最も重要なひとつということにはつきりしています。長い期間を経て準備され、世界中の若い世代の団体がここに来ようとしています。大変な成長ぶりです。」

す。ベルリンからロンドンに動くのに飛行機ではなく、余分な日数がかかる鉄道を利用します。音楽産業も変わっていくでしょう。前向きに考えれば、リニアアルなのです。どうなっていくかは判りませんが、それを期待しないよね。」

ヘンシェル：とてもいい発展の方向だと思つています。コロナの前に私たちが思い返すと、遠くに飛んで、コンサートをやり、その人々どう関わるかも判らないままに過ぎていった。ポジティブに考えれば、私たちが探求していた枠組みからずっと無くなつていったものを取り戻す、ということですね。」

30年の時が経つても、大阪コンクールはまだ続く。これからの30年に向け、どう変わっていくか、あるいは変わらなにか。その答えを出すのは、今年ステージに立った若者たちだ。」



当時のプログラムとともに記念撮影！

大阪国際室内楽 コンクール& フェスタ2023 レポ





「大阪での優勝を新たな出発点に
美しい音楽を世の中に届けたい」

Quartetto Indaco Interview

グランプリ・コンサート2023

クアルテット・インダコ

大阪国際室内楽コンクール2023 第1部門 第1位

インタビュー



5月の大阪国際室内楽コンクール2023の弦楽四重奏部門において、スタイリッシュかつ成熟した演奏を聴かせ、優勝に輝いたイタリアの実力派、クアルテット・インダコ。ちなみに「インダコ」というのはイタリア語で「藍(色)／インディゴ」を指す言葉なのだそう。とりわけ本選でのシューベルトの弦楽四重奏曲第15番は完成度の高い演奏で、聴衆を大いに魅了した。11月の「グランプリ・コンサート2023」でも彼らのシューベルトに期待が高まる。コンクールの思い出や今回のツアーでの演奏曲目、これまでの道のりなどについてお話をうかがった。

聞き手：後藤菜穂子(音楽ライター)

——大阪国際室内楽コンクールを振り返って、もっとも思い出に残っていることは？

挙げきれないほどたくさんありますが、初めて住友生命いずみホールで演奏できたことは最大の思い出のひとつです。すばらしい音響、美しい会場、親切なスタッフ、そして演奏後いつも声をかけてくださった聴衆の方々——そのおかげで忘れられない体験となりました。幸運なことには、私たちは入念に準備してきた曲をすべて披露できたわけですが、それでも一週間にわたるコンクールの間ずっと集中力を保つことは容易ではありません。だからこそ、結果発表で私たちの名前が呼ばれたときにはすべての感情があふれだし、私たちの努力がようやく報われたと感じたのでした。

——特に印象に残っている演奏はありますか？

それはクアルテットにとって答えづらい質問です。なぜなら、それぞれの奏者が違った印象を持っていますし、クアルテットという芸術形態の性質上、私たちは何かに



Ida DI VITA
Violin

完全に満足することがないからです。それでも敢えて振り返るならば、1次予選の初期ベートーヴェンとウエーベルンの小品は繊細さが求められる曲目でしたので、出だしはやや慎重でしたが、ホールに慣れてくるにつれて自信や自由さが出てきたと思います。本選ではコンクールであることを意識せずにお互いによく視線を交わし、対話し、コミュニケーションを取りながら、一瞬一瞬を大切に美しい演奏を心がけました。

——ファイナルにシューベルトの弦楽四重奏曲第15番を選んだ理由は？

シューベルトは私たちを導き、グループとしてのアイデンティティを与えてくれた作曲家の一人であり、コンクールでもっとも私たちがしさを出せるのはこの曲だと思ったのです。私たちはシューベルトの美的世界に親近感を抱き、その旋律や情景の世界を愛しく思っています。ロマン主義音楽の原点ともいえる音楽は民謡とも共通点があり、私たちはそうした彼の音楽のもつ魔法と純真さを描き出すことを目指しました。



Jamiang SANTI
Viola

——コンクールでの雰囲気はどうでしたか？

とてもすばらしい雰囲気です。出場者同士のネガティブで攻撃的な競争心もなく、自分たちおよび人々のために美しいものを創り上げようという姿勢が感じられました。私たちが他のグループの演奏を興味深く追っていましたし、こうした音楽をする喜びをコンクールで体験する機会は過去にはないものでした。しかも審査委員たちもそうした要素を重視しているように思いました。

——クアルテット・インダコは2007年にフィレンツェのフィエーゾレ音楽院で結成されたとうかがっています。以来、メンバー交代を経つ活動を続けてこられたわけですが、どんな道のりでしたか？

長い道のりでしたが、つねに友情とお互いへの敬意、そしてグループとしての成長を大切にしてきました。過去のメンバーとも家族のような友情でつながっており、コンクールの間も各ステージのあとに応援のメッセージを送ってくれたり、またイタリ



Cosimo CAROVANI
Cello

アの朝4時に起きてライブ配信を見てくれたりと心強かったです。しかし何よりも私たちが結びつけてきたのは、弦楽四重奏という芸術に対する深い愛情です。今の世の中、社会における芸術の役割を軽視する風潮があり、金銭的にもけっして楽ではありませんが、私たちはこの芸術に心を捧げてきました。その意味で私たちはこのコンクールを新しい出発点と見なし、改めて自信をもって美しい音楽を世の中に届けていきたいと思っています。

——グループにおける4人の関係および特性について教えてください。

文豪ゲーテは弦楽四重奏について「4人の合理的な紳士が交わす素敵な会話だと語り、またパオロ・ボルチアーニ「イタリア弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者は「16本の弦をもったひとつの偉大な楽器」と述べていて、私たちはそうした言葉を理想としつつ取り組んでいます。4人の関係はその時々で変化しますが、お互いに聴き合い、尊敬し合い、柔軟なリーダーシップをもった民主主義的なグループでありたいと思っています。



Eleonora MATSUNO
Violin

ザ・フェニックスホールに集う トップアンサンブルシリーズ 2024-2025

室内楽の至高のレガシー「ラズモフスキーセット」

大阪国際室内楽コンクール & フェスタ × あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール



ウィーンの風 〈ドイツ/2022年 ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール、ポルドー国際弦楽四重奏コンクール第1位〉
レオンコロ・クアルテット Leonkoro Quartet

ウェーベルン:弦楽四重奏のための緩徐楽章
シューベルト:弦楽四重奏曲第9番 短調 D173
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第7番 へ長調 op. 59-1「ラズモフスキー第1番」

【会場】 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
ヨナタン・昌貴・シュヴァルツ(ヴァイオリン)
アメリー・コジマ・ヴァルナー(ヴァイオリン)
近衛麻由(ヴィオラ)
ルカス・実・シュヴァルツ(チェロ)

2024 4/29(月・祝) 15:00開演 [全席指定] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500



受け継がれる正統派ドイツサウンド 〈ドイツ/第2回大阪国際室内楽コンクール第1位〉
ヘンシェル・クアルテット Henschel Quartet

メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲第3番 二長調 op. 44-1
シューベルト:弦楽四重奏曲第13番 短調 D804「ロザムンデ」
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第9番 へ長調 op. 59-3「ラズモフスキー第3番」

【会場】 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
クリストフ・ヘンシェル(ヴァイオリン)
ダニエル・ベル(ヴァイオリン)
モニカ・ヘンシェル(ヴァイオラ)
マティアス・バイヤー・カルツホイ(チェロ)

2024 9/27(金) 19:00開演 [全席指定] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500



弦楽四重奏大国アメリカで頭角を現す俊英 〈アメリカ/第8回大阪国際室内楽コンクール第3位〉
ヴェローナ・クアルテット Verona Quartet

メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲第1番 変ホ長調 op. 12
ヤナーチェク:弦楽四重奏曲第1番 ホ短調「クロイツェルソナタ」
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第8番 ホ短調 op. 59-2「ラズモフスキー第2番」

【会場】 ytv 10hall
ジョナサン・オン(ヴァイオリン)
ドロシー・ロー(ヴァイオリン)
アビゲイル・ロジャンスキー(ヴィオラ)
ジョナサン・ドーマンド(チェロ)

2025 3/1(土) 15:00開演 [全席自由] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500

※ザ・フェニックスホール改修期間のため、ヴェローナ・クアルテットの公演は読売テレビ10hallで開催予定ですが、変更になる場合がございます。詳細は11月に発表予定です。

チケット発売 ザ・フェニックスホール友の会優先 2023年11月24日(金)/一般 11月28日(火) 3回セット券 ¥13,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥11,500

チケット取扱 ザ・フェニックスホール チケットセンター 06-6363-7999 あいおいニッセイ同和損保フェニックススタワー8F(営業時間:10:00~17:00 休業日:土・日・祝日) ※セット券、学生券はザ・フェニックスホールチケットセンターのみ取り扱い(学生券は25歳以下、要学生証提示) 主催:公益財団法人日本室内楽振興財団/あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

主催事業報告 こどもクラシックミュージックアトリエ vol.4 住友生命いずみホール

調査研究事業の一環として2022年から開催している「こどもクラシックミュージックアトリエ」の第4弾!今回は、小学生を対象とした、ヴィオラ、フルート、ハープのトリオによるコンサートでした。フルートの江戸聖一郎さん扮する「エディ」、ヴィオラの後藤彩子さん扮する「アヤコ」、ハープの福井麻衣さん扮する「マイマイ」が、音楽の世界に誘います。今回のテーマは、「楽器の構造と音の鳴り方」。どうやったらみんなに伝わるかな?と出演者とスタッフで頭をひねり、夏休みの自由研究さながらの打ち合わせを重ね、出来上がった手作り楽器も披露!皆さん、楽器の音や仕組みに興味深々!充実した1時間のコンサートとなりました。そして公演の開始前、終了後には、ロビーでヴァイオリンの楽器体験も実施しました。自分の手で楽器を鳴らし、「すごい!」「やったー!」という歓声が聞こえてきました。「こどもクラシックミュージックアトリエ」は今後も実施予定です。お楽しみに!

2023年8月17日(木) ①11:00-12:00 ②14:00-15:00
【出演】江戸聖一郎(フルート)、後藤彩子(ヴィオラ)、福井麻衣(ハープ)
【料金】無料(事前応募によるご招待) [対象]小学生とその保護者

★演奏曲目
ティエリ:三重奏の組曲より 第1楽章
ドビュッシー:月の光
モーツァルト:きらきら星変奏曲
成田為三:浜辺の歌
キュイ:スケルツィーノ
ドビュッシー:フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタより 第2楽章
ジョリヴェ:小組曲より 第5楽章

お土産に「ふりかえりクイズ」もプレゼント!おうちに帰っても、動画で復習できます!

写真:栗山主税



- ◎素敵なホールに、子どもたちはウキウキしていました。
- ◎こどもは感性豊かなので、初めての曲でも心に惹かれると集中して曲を聴くのだなあと改めて感じました。
- ◎手作り楽器の紹介を見て「家でも作れるんだ!」と、家に帰るとティッシュの空き箱と輪ゴム4つを使ってヴァイオリンを作っていました。
- ◎ヴァイオリン体験は貴重な体験で、音が出た時の嬉しそうな表情が印象的でした!
- ◎最後にふりかえりクイズを復習という形でいただけたことも目から鱗で、家に帰ってからコンサートについての振り返りができて、楽しいひと時を過ごされました。

そのなかでエレオノラ・マツノ(ヴァイオリン)は、私たちがいつも音楽の誠実さと美しさへ引き戻してくれる存在です。イダ・ディ・ヴィータ(ヴァイオリン)とジャミアング・サンティ(ヴィオラ)は、対話における一体感を作り出し、全体をうまく結合させる役割を担っています。他方、コジモ・カロヴァニ(チェロ)は、重要なアイデアを出したり、プロジェクトを考案したりすることが好きで、グループに違った視点をもたらします。

「グランプリ・コンサート2023」で演奏される曲目についてお話しいただけますか?

すでにお話ししたように、シューベルトは私たちにとって深い結びつきをもつ作曲家であり、本選で演奏した弦楽四重奏曲第15番に加え、第14番《死と乙女》を取り上げます。また私たちが大好きな20世紀前半のフランス音楽から、ラヴェルの弦楽四重奏曲を選びました。長年演奏してきた曲であり、いつも満ち足りた気分に分けてくれます。3次予選で弾いたベートーヴェンの弦楽四重奏曲作品74《ハーブ》は古典の金字塔であり、コンクールへの敬意をこめて選びました。

あとの2つの作品は、クアルテット・インダコの中核レパートリーのなかから別の面も聴いていただきたいと思って選びました。ひとつは現代の作曲家ベテリクス・ヴァスキの弦楽四重奏曲第5番。私たちがこの曲を、本人の前で初めて演奏したのですが、とても心動かされたとおっしゃって



くださりました。他方、ポッケリーニはイタリアの古い時代の音楽ですが、私たちの流浪のイタリア人魂を象徴する曲としてよく演奏しています。再び旅ができるようになった今、こうした多様なサウンドを通して、日本の皆様を美しい旅にお連れできたらと願っています。

「日本滞在中に体験したいことは?」

あらゆる体験をしたいですし、あらゆる場所を見て回りたいです!もちろん一生かけてもすべてを見ることはできませんし、ましてや理解することもかなわないわけですが、実はコンクールの終了後、私たちは日本にさらに10日間滞在し、わが国とはまったく異なる世界を見て回り、楽しい時を過ごしました。今回の滞在中も神社やお寺、京都の路地、お城や博物館などを訪れたいですね。でもそうした名所にかぎらず、小さな居酒屋も日常の風景もすべて新鮮に感じます。ツアーの合間にはそうした日本の空気をたっぷり味わいたいと思います。

クアルテット・インダコ(弦楽四重奏) Quartetto Indaco, String Quartet

エレオノラ・マツノ(ヴァイオリン) / イダ・ディ・ヴィータ(ヴァイオリン)
ジャミアング・サンティ(ヴィオラ) / コジモ・カロヴァニ(チェロ)

クアルテット・インダコは、今日、同世代のイタリアの弦楽四重奏団の中でも特に注目を集めるアンサンブルであるとみなされている。フィエーゾ音楽院とハノーファー音楽演劇大学(オリバー・ヴィレの指導のもと、室内楽の修士号を取得)を卒業後、キジアーナ音楽院でギンター・ビヒラーのマスタークラスを受講。2017年にスコッティーズ賞、プレミオ・パオロ・ボルチアーニコンクールでファイナリスト選出、マンハッタン国際コンクールゴールドメダルなど数々の国際的な賞や奨学金を獲得している。「コンパクトなアンサンブルで、エナメル質と高揚感で満ちている」と表現され、クアルテットは、Brilliant Classics、Ema Vinci、ミラノのSconfinateなどに録音を残している。イタリアの著名な音楽祭や機関に招聘され、ヨーロッパ各地や海外でも定期的に演奏している。Quartetto Indacoウェブサイト <https://www.quartettoindaco.com/>



グランプリ・コンサート2023 スケジュール

日時	開演	公演地	プログラム	会場
11/1(水)	19:00	鳥取	A	鳥取市文化ホール
11/3(金)	14:00	静岡	B	沼津市民文化センター
11/4(土)	14:00	三重	※	三重県文化会館
11/6(月)	19:00	大阪	B	住友生命いずみホール
11/8(水)	19:00	富山	A	富山県高岡文化ホール
11/11(土)	14:00	熊本	A	益城町文化会館
11/12(日)	14:00	大分	B	くにさぎ総合文化センター
11/14(火)	19:00	宮崎	A	小林市文化会館
11/17(金)	19:00	神奈川	B	横浜市鶴見区民文化センター
11/18(土)	14:00	神奈川	A	海老名市文化会館
11/19(日)	14:00	東京	A	浜離宮朝日ホール

- プログラム A
- ヴァスキ:弦楽四重奏曲第5番
 - ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第10番 変ホ長調「ハーブ」op.74
 - シューベルト:弦楽四重奏曲第14番 二短調「死と乙女」D810
- プログラム B
- ポッケリーニ:弦楽四重奏曲 op.44-4 長調 G.223「ティラーナ」
 - ラヴェル:弦楽四重奏曲 へ長調
 - シューベルト:弦楽四重奏曲第15番 長調 D887

※11/4三重公演は、前半A、後半Bのプログラムで実施します。

イタリアの民族楽器

アフリカ北岸からアルプスへ、
南北に長いイタリアの楽器の多様性

イタリアの音楽と言えば「オペラ」や「カンツォーネ」といった歌を中心にしたものが多いが、実はイタリアは現代に繋がる楽器の祖を作り出し、各地域に残る民族楽器もその国の歴史を伝えてくれる。

構成・文／片桐卓也

オカリナ



その起源はどうやら
マヤ文明まで遡るらしいが、大航海時代にイタリアに伝わり、
そこから現在のオカリナ
に発展したと言われている。

名前の「オカ」はイタリア語でガ
チョウを意味し、「リナ」は接尾語で<小さな>を意味する
ので「小さなガチョウ」という意味になる。1860年頃
にジュゼッペ・ドナティという人物が楽器として改良して、
現在に至る。陶製、あるいはプラスチック製で、
いわゆるリードの無い「エアリード」楽器に分類される。吹
き口はちょっと手前に出ていて、ボディには穴が開いて
おり、それを指で押さえることで、音程を作り出すが、
約1オクターブ半しか音域が無いので、大きさを替えた
オカリナを使い、アンサンブルをすることもある。

ピッフェロ

(イタリアのオーボエ)



イタリアの北部、特にアペニン山脈北西部の地域の音楽に欠かせないイタリアのオーボエ、それがピッフェロである。形からすると、オーボエというよりは小さなトランペットのように見えるけれど、ダブルリード楽器であり、ボディは木製で、中世のショーム(オーボエの祖)の子孫だと考えられている。珍しいのは、ダブルリードを外に付けるのではなく、円錐形の管の中にリードが入っており、それをボディに付けて吹くという点だろう。前面には7つの穴、背面にはひとつの穴が開けられており、それを指で塞いで音程を変える。音の出る場所である「ベル」の部分にはガチョウの羽根が付けられているのも特徴のひとつ。シチリア島にも同型のちょっと大きなオーボエがある。

ザンポーニャ

(イタリアのバグパイプ)



バグパイプは息を溜める大きな袋
に複数の木管を繋ぎ、木管の先に
リードを付けて吹く。こうした楽器
の元祖はエジプトにあり、その後
メソポタミア各地に広まり、インドにも
伝わったとされる。ヨーロッパへも古代に
伝わり、ケルト人、特にアイルランドやスコット
ランドに伝わって、現在でも主要な民族楽器として使われている。
イタリアではザンポーニャと呼ばれるが、スコットランドなどの物
より息を溜める袋の大きな点が特徴で、山羊や羊の皮を使って作
られる。現在のイタリアでは主に南イタリアの民族音楽の中で使わ
れており、タランテラと呼ばれるダンス音楽には欠かせない楽器と
なっている。想像だけれど、吹くにはかなり肺活量が必要そうだ。

オルガネット

(南イタリアの伝統的アコーディオン)



オルガンは古代ギリシャ、
ローマの時代から存在し
ていた楽器だが、それを小
型にして持ち運べるよう
にしたアコーディオン系の楽器
もヨーロッパ中に広がって、独自の
発展を遂げた。ロシアのパヤーンなども
そうだし、近代になってドイツで開発されたバンドネ
オンも同じだ。オルガネットはボタン式のアコーディ
オンで、現在は主に南イタリアの民族音楽のなかで
使われている。その音色はかなり庶民的な感じがする。
右手側にはメロディを演奏するボタン、左手側には
ハーモニーを出すボタンが付いており、蛇腹を動かして
空気を送り込みながら演奏するのはアコーディオン
と同じだ。イタリアには各地に様々なスタイルのアコー
ディオンが存在している。



サクバット



フォルテピアノ



チンバソン

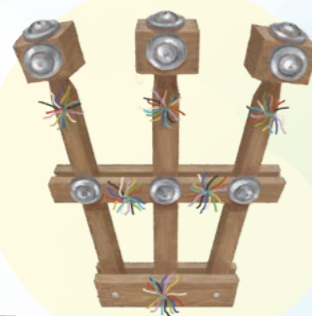
現代に繋がるイタリアの楽器

ヴァイオリンをはじめ、フォルテピアノなど
現代のクラシック音楽に欠かせない楽器のルーツはイタリア

イタリアはルネサンス以降、様々なアラブ文化、新大陸の文化を取り
入れた結果、楽器の面でも次々に現代の楽器の祖となるアイデア
を生み出して来た。その大きな例はチェンバロの発明だろうし、トロン
ボーンの元となったサクバットは、イタリア・ルネサンス、バロック期
の音楽に使われて、現在もピリオド・スタイルの演奏をする団体が使用
している。チェンバロをさらに改良しようとしたのが、17世紀半ば生
まれのパルトロメオ・クリストフォリで、彼はいわゆるフォルテピアノの
原型となる様々な種類の鍵盤楽器を試作し、それを実際に演奏して
いたと言う。ローマのイタリア国立楽器博物館には1722年製のクリ
ストフォリの楽器が展示されている。近代ではチンバソンという低音
金管楽器が開発され、ヴェルディのオペラなどで欠かせない楽器とし
て使われている(イタリア以外の国ではチューバで代用する)。

トリッカバラッチェ

(ナポリの古い音楽で使われる打楽器)



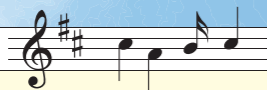
イタリアを訪れてみると分かるように、
各都市、各地域でかなり文化が違う。シ
チリアは古くはアラブ系やノルマン系の
支配を受け、近代でもスペインの支配下
にあった。北イタリアはオーストリア帝国に支配
されていたし、ローマはカトリックの総本山であるた
めに国際色豊かな都市であった。ナポリはシチリアと同じようにスペイン
の支配下であった時代が長く、その時代にルーツを持つ音楽、楽器も
多い。近代になってナポリ民謡が有名になったが、それ以前から独自の
音楽文化を持っていて、この打楽器トリッカバラッチェに代表されるよう
に、他の地方では見ない楽器も多い。トリッカバラッチェは組んだ木の
先に金属片を付けた打楽器で、ナポリの民族舞踊に欠かせない。

マンドリン

丸い琵琶型のボディに弦
を張り、それを金属や動物
の角などで爪弾く楽器は
インドからヨーロッパまで
広く分布している。それらを元に
17世紀頃イタリアで開発された楽器が
マンドリンで、弦はスチール製である。イタリアでは
王族に愛好されたことから発展し、大きなアンサン
ブルも作られた。その伝統は近代日本にも伝えられ、
やはり皇族が愛好したことから、日本各地にマンド
リン・アンサンブルが生まれ、大学でもマンドリン演奏
部などが誕生した。さらにはアメリカにも伝わり、独自
のフラットなボディのマンドリンが誕生して、アメリカ
のブルーグラス音楽には欠かせない楽器となった。
意外に身近な楽器のひとつである。



こういう場所で聴ける



日本ではイタリアの民
族音楽を聴ける場所は
ほとんど無いけれど、
時にはイタリア料理の
レストランなどで、ア
トラクションとしてマ
ンドリンの演奏を聴くこ
とも出来た。東京では
イタリア文化会館が主
宰し、イタリア各地に
伝わる音楽や人形劇の
紹介をしているので、情
報をチェックしてみよ
う。また、イタリアの古
楽団体の来日公演もあ
るので、調べてみよう。

Ludwig van Beethoven

ベートーヴェンとウィーン



ハイリゲンシュタット、ベートーヴェンの散歩道近くのワイン畑

オーストリアのウィーンを拠点に活動したベートーヴェンは、市内や郊外を転々としながら作曲に勤しみました。

ハイリゲンシュタット

〜絶望と克服〜

ベートーヴェンは、20歳をすぎた頃にドイツ西部のボンからオーストリアのウィーンに拠点を移し、音楽を学びつつもピアノリスト、作曲家として本腰を入れて活動していました。しかし、30歳を手前にして、難聴の兆候が現れます。そこでさまざまな医者にその症状を打ち明け、うち一人の医者ヨハン・アダム・シュミット(1759〜1809)が、当時湯治場として名を馳せていたハイリゲンシュタットで療養することを勧めました。

1802年5月(31歳)より、ハイ



ハイリゲンシュタットにある、散歩をするベートーヴェンの石像

リゲンシュタットにあるパン屋さんの庭小屋を借り、希望を抱いて温泉による治療に励みますが、なかなか思うように回復しませんでした。さらに、なんとそれでも音楽家として成功したいという思いとは裏腹に、この頃のベートーヴェンは自分の望む評価が周囲から得られず、大きなプレッシャーを感じる日々を送っていました。

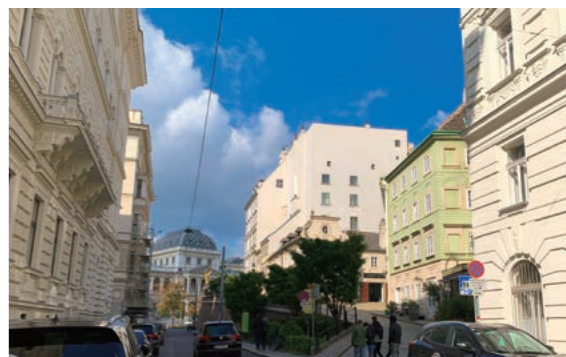
このパン屋の庭小屋には半年間しか滞在しませんでした。ここで最も意欲的な作品であるピアノソナタ第16〜18番、エロイカ変奏曲、そしてヴァイオリンソナタ第6〜8番を完成させたといわれています。

バスカラーティ・ハウス

〜筆がはかどる見晴らしのいい家〜

数えきれないほど引越しを重ねたベートーヴェンですが、バスカラーティ・ハウスという建物は、その中でも彼が1804年秋から1815年春まで断続的に長く住んだ、数少ない住居の一つです。というのも、ベートーヴェンのパトロン一人であるバスカラーティ男爵が所有しており、引越し癖のあるベートーヴェンの思考や生活パターンを理解してか、ベートーヴェンがいつでも戻って来られるように、部屋を空けていたそうです。

1797年に建設された、当時は比較的新しい建物で、特にウィーンの一部に位置する高台に建っていることもあり、見晴らしがよく、



高台にあるバスカラーティハウス

ベートーヴェンは大変気に入っていました。

いほどの名曲を生み出しました。

そんな場所ともなれば、彼の筆は止まりません。この家では、交響曲第4番、第5番、第7番、第8番、歌劇《フィデリオ》、ピアノ三重奏曲第7番(大公)など、枚挙にいとまがない。

ティーファングラーベン

〜意欲的な作品が生み出された家〜

上記の通り、数えきれないほどの引越し(60〜80回と言われています)



ティーファングラーベンのベートーヴェンの家の跡地

をしたベートーヴェンは、いつどこにどのくらいの期間住んだかが分からないことも多いのが現状です。その中でも、確証はないもの、おそらく1800年から1801年、そして1815年から1817年の2回にわたって滞在したとされる家の跡地が、ウィーン中心部ティーファングラーベン通りにあります。

元々その建物は、音楽付きの宮廷顧問官のフランツ・サレジウス・フォン・グライナーが所有していました。ここではモーツァルトや、ベートーヴェンの師であるハイドン、サリエリが頻りにコンサートを開いており、おそらく音楽関係者との繋がりで、ベートーヴェンは、この建物の3階に間借りしたのではないかと言われています。

1800年から1801年には、ヴァイオリンソナタ第4番、第5番《春》、弦楽五重奏曲などの、中期にかけての意欲的な室内楽作品が書かれたほか、1815年から1817年にかけては、歌曲集《遙なる恋人に寄せて》、チェロソナタ第4番、第5番、ピアノソナタ第28番、第29番(ハンマークラヴィア)など、後期の重要な作品が書かれたとされています。

ベートーヴェンが住んでいた当時の建物は、残念ながら1944年に空襲によって破壊されてしまいました。が、ベートーヴェンが滞在していたとされる住居(Tiefer Graben 10)の4階には、1773年にモー

ツァルトが3度目のウィーン旅行の際に滞在した建物(Tiefer Graben 10)が残っています。

バーデン(ウィーン郊外)

〜健康回復への最後の望み〜

ベートーヴェンがウィーン市外に滞在した場所はいくつかあります。1812年には湯治場として有名なテプリッツ、カールスバート(どちらも現在のチェコ)、1807年秋にはハイドンにゆかりのあるアイゼンシュタット、1826年には自身の弟が住むグナイクセンドルフなどが挙げられます。その中でも、ウィーンから20数キロ離れた場所にあるバーデンは、ベートーヴェンを語る上で欠かせない場所でしょう。

バーデンは、その地名がドイツ語で「風呂」を意味する言葉(英語ではbathにあたります)であることから分かる通り、湯治場として栄えていました。

健康に問題があったベートーヴェンは、湯治の名目で1803年から1825年までに15回滞在し、「バーデンの温泉だけが、僕の今の健康状態を良くしてくれるものだ」と信じている「と弟へ書き残しているほどです。



バーデンにあるベートーヴェンの家

大井 駿 (文&写真)

指揮者、ピアニスト、古楽器奏者。1993年、東京都出身。第1回次世代指揮者コンクールにて優勝。パリ、ミュンヘン、ウィーン、ザルツブルク、バーゼルにて、ピアノと指揮と古楽を学ぶ。読売日本交響楽団、東京都交響楽団、広島交響楽団、モーツァルトテウム管弦楽団等と共演。

国際音楽コンクール世界連盟 レポート

世界の国際音楽コンクールの集いが浜松で開催



経済、流通、文化などに業界団体があるように、「国際音楽コンクール」にも「国際音楽コンクール世界連盟」がある。会員資格や運営規程などのガイドラインに則ったコンクールだけが、連盟加盟としての「国際」を名乗れるわけである。年1回開催されている定時総会が、今年は日本で開催された。

河井 拓 (大阪国際室内楽コンクール&フェスタ 総合プロデューサー)

©Hamamatsu International Piano Competition

Denationalization (国籍非重視化)

従来のコンクールでは出場者の「Nationality(国籍)」が必ずと言ってよいほど明記され、最終的な入賞者数だけでなく、応募者、参加者、ファイナリストに至るまで国籍別の統計が出されることも珍しくない。時折揶揄されるように、「参加者の背後に国の威信が見え隠れしていた時代には、「国を背負って」という気概で挑戦する若者もいただろう。しかし、グローバル化が進んだ現在では、アジアで生まれ、オーストラリアで学士号を取得し、その後はフランスの音大で学び、現在の拠点地はドイツという背景の音楽家が珍しくなく、本人の帰属意識も出生国(パスポートの国籍)とは限らない。WFIMCからは、今の状況においては「国籍



アジアセッション登壇者



PTNAの活動紹介

楽器工場見学、ウエルカムレセプションを経て、翌6月2日からは本格的なデイスカッションに入った。「アジア地域におけるクラシック音楽の様態(日本からは二瓶純一・ジャパン・アーツ社長が登壇)」、「PTNAの取り組み」、「ジェンダー問題」、「ピアノメーカー論議」など様々なテーマの発表や議論が行われたが、海外のトレンドについて筆者が特に印象に残った2点を紹介する。

Fake Online Competition (偽のオンラインコンクール)

俄かには信じられない話だが、実際の国際コンクールに非常に似た名前のコンクールとして出場者を募集し、オンライン上で多額の参加料を徴収し、応募者は「正式な」参加証を受け取り、意欲も高く必死に練習した後、当のコンクールが無くなっているという事例が発生しているらしい(WFIMCに加盟している「International Beethoven Piano Competition Vienna」を模した「Beethoven Competition Vienna」など)。質の悪い物になると、数度のオンライン審査の度に審査料を請求し、雲隠れするケースも発生しているようである。WFIMCとしては詐欺の一種として注意を呼び掛けており、著名な都市名、作曲家名のコンクールの募集があった際には、事務所の住所、問い合わせ電話番号など、コンクール開催のしつかりとした裏付けを確認するよう呼びかけている。

を重要視して明記するのは非合理的では無いかと提言がなされた。ただし、これは地続きで越境往来の多いヨーロッパ若しくは他国からの流入が多いアメリカにおける感覚なのか、個人的にはアジア地域の帰属意識はまだ「国籍」に準拠している例も少なく無いようにも思える。また、日本のコンクールは地方公共団体が主催に入っている場合があり、「いかに多様な国、地域から参加し、国際交流が広がっているか」を行政に報告する必要があるという観点から、国籍を軽視することは難しいという意見も出た。なお、室内楽コンクールにおいては、多国籍アンサンブルは以前から珍しく無く、大阪のコンクールでも各奏者の国籍は既に明記しておらず、アンサンブルの「拠点地」を紹介する形になっている。

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023の全日程が完了し、参加した118名の音楽家たちの渾身の演奏の熱量がまだ耳の奥に残っている梅雨の入り頃。6月1日から開催される国際音楽コンクール世界連盟(WFIMC)の総会のために、コンクール&フェスタの事後処理もままならない中、静岡県浜松市にあるアクトシティ浜松を訪れた。



日本のコンクールのメンバーによるラウンドテーブル集合写真



WFIMCの現理事

WFIMCは1957年に設立され、110を越える「国際音楽コンクール」が加盟している。国際音楽コンクールとして相応しい芸術性、格調、公平性を保つためのガイドラインを提供し、コンクールを目指す若手音楽家の国際的なキャリアパスをサポートすることを理念としている。毎年、加盟コンクールの拠点地で総会が開かれていて、今年は浜松国際ピアノコンクールがホスト

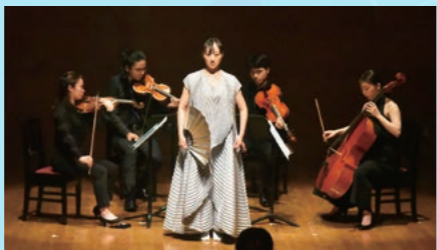
として受け入れた。(なお、浜松国際ピアノコンクールの小川典子審査員長は、WFIMCの理事でもある。) 今回の総会のために世界から45の国際コンクールなどの組織が集まり、変遷していく世界の中でのコンクールの役割について議論が交わされた。総会に先立って、日本で加盟している9つの国際音楽コンクールの担当者が集まる日本テーブルが行われた。日本でWFIMCに加盟しているのは、仙台国際音楽コンクール(ヴァイオリン、ピアノ)、国際オーボエコンクール・東京、東京国際音楽コンクール(指揮)、武蔵野市国際オルガンコンクール、浜松国際ピアノコンクール、静岡国際オペラコンクール、神戸国際フルートコンクール、高松国際ピアノコンクール、そして大阪国際室内楽コンクールである。各々のコンクールは個別に連絡を取り合ったことはあったが、加盟全団体が一堂に会することは初めてとなる。コンクール運営上の常日頃の課題だけでなく、感染症やウクライナを取り巻く国際情勢など、各々の課題や取り組みを共有する良い機会となった。特に行政関係との実務的な対応については、可能な範囲内で共通見解を持ち合わせていた方が良かったらう。国内にはWFIMC未加盟のコンクールもあるが、今回の議論がそのような団体とも共有されていけば、日本のコンクールがより有意義になっていく事が期待できらう。



日本テーブル

西洋音楽と日本芸能のコラボレーション

期間中には参加者への鑑賞プログラム「能シヨウケース」として、能声楽家の青木涼子が、フルート奏者斎藤和志と、弦楽四重奏クアルテット・インテグラによるパフォーマンスが披露された。フェデリコ・ガルテラ「風の声」(謡、バスフルート)、武満徹「ア・ウエイ・ア・ローン」(弦楽四重奏)、そして馬場法子「ハゴロモスイート」(謡、弦楽四重奏)が上演され、日本の古典芸能と西洋音楽のコラボレーションに感嘆の声が上がっていた。



能シヨウケース

国際情勢は激動の3年間を経験し、国際音楽コンクールの意義やビジョンも大きく影響を受けていることを共有し、未来につなげていくために、意義の大きい総会だったことは間違いない。来年の総会はイタリアのパルマで開催予定である。若手音楽家の目指す目標として、そして彼らのキャリアの重要なステップとなるべく、国際コンクール同士連携して検討を継続していきたい。

■ 2023(令和5)年度 第1回理事会

開催：2023年6月8日(木) ホテルニューオータニ大阪

承認事項：①2022(令和4)年度事業報告書及び決算報告書 ②2023(令和5)年度定時評議員会の招集と議程
 ③常務理事(業務執行理事)選定 新任常務理事：藤門 浩之(日本室内楽振興財団)
 ④選考委員1名の選出 新任選考委員：宇野 文夫(神戸学院大学教授)

報告事項：①会長、理事長、常務理事の職務執行状況 ②「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」実施報告

■ 2023(令和5)年度 定時評議員会

開催：2023年6月30日(金) ホテルニューオータニ大阪

承認事項：①2022(令和4)年度事業報告書及び決算報告書 ②評議員22名の選任(改選期)
 ③理事1名と監事1名の辞任と監事1名の選任 新任監事：藤原 伸一(読売テレビ)

報告事項：①常務理事(業務執行理事)選定 ②選考委員1名の選出 ③「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」実施報告

上記定時評議員会において承認された評議員 ※は新任

評議員 安藤 恭輔(アサヒビール)、牧野 明次(岩谷産業)、川口 真之(大林組)、稲垣 直(鹿島建設)、河村 達樹(きんでん)
 後藤 俊行(清水建設)、西田 達矢(積水化学工業)、加賀田 健司(大成建設)、*三澤 義一(大和ハウス工業)
 *清水 弘之(竹中工務店)、大江 謙(電通コーポレートワン)、*空井 愛(東芝インフラシステムズ)
 *梶原 全裕(西日本電信電話)、河端 秀直(日建設計)、河内 克樹(日本電気)、*吉田 拓也(ニュー・オータニ)
 木村 太一(野村證券)、堤 研二(ハウス食品グループ本社)、甲斐 啓生(非破壊検査)
 高橋 英也(三井住友信託銀行)、乾 佐登司(読売テレビ)

音楽評議員 梅本 俊和(大阪音楽大学)

■ 2024(令和6)年度 助成金募集について

2024年度の助成金交付事業の募集は2023年10月31日(火)をもって締め切らせていただきます。申請されたものについては2024年2月上旬までに開催を予定している選考委員会で審議いたします。なお2025年度の助成金募集については2024年秋に実施する予定です。

お問い合わせ：公益財団法人 日本室内楽振興財団 電話 06-6947-2183 HP <https://jcmf.or.jp>

公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

大阪ガス株式会社	住友生命保険相互会社	川崎重工業株式会社	非破壊検査株式会社	株式会社JTB
関西電力株式会社	大樹生命保険株式会社	株式会社クボタ		株式会社電通
	東京海上日動火災保険株式会社	ダイキン工業株式会社	大塚製薬株式会社	株式会社ニュー・オータニ
住友電気工業株式会社	日本生命保険相互会社	日本製鉄株式会社	住友化学株式会社	
ソニーグループ株式会社		日立造船株式会社	積水化学工業株式会社	KDDI株式会社
株式会社東芝	野村證券株式会社	三菱重工業株式会社	武田薬品工業株式会社	西日本電信電話株式会社
日本電気株式会社			日本ペイント株式会社	
パナソニック ホールディングス株式会社	アサヒビール株式会社	株式会社日建設計		株式会社読売新聞大阪本社
株式会社日立製作所	サントリーホールディングス株式会社		近畿日本鉄道株式会社	株式会社読売新聞東京本社
富士通株式会社	ハウス食品グループ本社株式会社	株式会社大林組	京阪電気鉄道株式会社	日本テレビ放送網株式会社
ローム株式会社		株式会社きんでん	南海電気鉄道株式会社	読売テレビ放送株式会社
	東洋紡株式会社	株式会社鴻池組	西日本旅客鉄道株式会社	
株式会社関西みらい銀行	株式会社ワコール	清水建設株式会社	阪急電鉄株式会社	(関連業種別 五十音順)
株式会社みずほ銀行		大成建設株式会社	阪神電気鉄道株式会社	
株式会社三井住友銀行	伊藤忠商事株式会社	大和ハウス工業株式会社		
三井住友信託銀行株式会社	岩谷産業株式会社	株式会社竹中工務店		
株式会社三菱UFJ銀行	株式会社千趣会			
株式会社りそな銀行	三菱商事株式会社			

編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団
 〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3-50
 TEL.06-6947-2183 FAX.06-6947-2198
<https://jcmf.or.jp>
 Vol.60 令和5年9月27日
 編集：菱田義和 大丸敦子(まるこ)
 表紙：15-16Pイラスト：Mie

編集後記

「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」が無事終了し、奏も次の3年に向けて企画を新たにすることになった。奏は、毎回Mie.さんに表紙を書き下ろしていただいている。さあ、どんなテーマにしようかと皆で考えているうちに、「グランプリ・コンサート2023」に出演するカルテット・インダコのメンバーの笑顔が思い出された。そこで今回は、楽器とともに彼らの出身地イタリアのフルーツやお菓子をちりばめた、実においしいような表紙となった。インダコの皆の再来日が、とても楽しみです。(まるこ)



Felix Mendelssohn

末広がりの八重奏



「末広がりの八」というように、八は縁起のよい数字。連載第1回はおめでたく弦楽八重奏について。

飯尾洋一(音楽ライター)

奇跡の名曲——メンデルスゾーンの八重奏曲

音楽の世界には「奇跡の名曲」と呼ぶしかないような作品がある。メンデルスゾーン(1809~1847)が1825年に書き上げた八重奏曲はその筆頭だろう。その輝かしさとみずみずしさは比類がない。当時作曲家はわずか16歳。これほど完成度の高い作品をその年齢で書いてしまうとは。音楽史にはさまざまな神童が登場するが、メンデルスゾーンの早熟ぶりは際立っている。

八重奏曲は7歳年上の友人でありヴァイオリンの師でもあったエドゥアルト・リーツの誕生祝いのプレゼントとして書かれた。八重奏曲での第1ヴァイオリンの活躍ぶりからするとリーツはきつと卓越した奏者だったのだろう。リーツの豊かな音楽的才能がメンデルスゾーンを触発し、開花させた面もあったかもしれない。

八重奏曲の編成はヴァイオリン4、ヴィオラ2、チェロ2。弦楽四重奏を2倍にした編成だ。流麗な曲想に加えて、厚みのある響きが作品の魅力を増している。メンデルスゾーンの八重奏曲はこの編成で書かれた最初の有名曲だろう。弦楽八重奏という分野を開

メンデルスゾーンの後継者たちとエネスクの労作

拓した功績も見逃せない。このアイディアはどこから来たのだろうか。よく指摘される先例は、同時代の作曲家であるルイ・シュポーア(1784~1859)の弦楽八重奏曲(複弦楽四重奏曲)。ただ、シュポーアの作品は八重奏というよりは、2群の弦楽四重奏からなるもので、発想が少々異なる。この先例が目に入っていたとしても、依然、メンデルスゾーンの八重奏が先駆的であることにはかわりはない。

逆にメンデルスゾーンの八重奏曲に影響を受けて誕生したと思われる作品はいくつもある。メンデルスゾーンの弟子筋であるデンマークの作曲家ゲーゼ(1817~1890)の弦楽八重奏曲は、1849年、メンデルスゾーンが早世してまもなく作曲されている。師へのオマージュと呼べそうだ。

ドイツの作曲家ブルッフ(1838~1920)は、世を去る1920年に弦楽八重奏曲を書いた。チェロ2ではなくチェロ1+コントラバス1という微妙な編成の違いはあるものの、作曲年代の新しさにもかかわらず、メンデルスゾーン・スタイルの作品に

なっている。

ルーミアアの作曲家エネスク(エネスク)(1881~1955)の弦楽八重奏曲もメンデルスゾーンの傑作なくしては書かれなかった作品だろう。作曲は1900年。おもしろいのは、これが本家メンデルスゾーン同様、若年期の作品だということだ。完成時、作曲者は19歳。

「オレも10代で八重奏曲の傑作を書いて、天才の仲間入りを果たすぜ!」そんなふうにエネスクが思ったかどうかはわからないが、メンデルスゾーンをまったく意識しなかったとは考えにくい。作品はゲーゼやブルッフに比べれば、一歩も一歩も新しさを感じさせる作品で、後期ロマン派的な濃厚な味わいを持つ。もつとも作曲に1年半をかけたというのだから、メンデルスゾーンよりはるかに苦勞している。この40近い大曲を書くにあたって、後年のエネスクは「川に初めて橋を架ける技師だって、私が五線譜に向き合うときに感じたほどの不安は抱かなかっただろう」と述べている。

幸いにして、音楽作品はなにかがうまくいかなかったとしても、橋のように人命にかかわる事故は起こさない。それに、エネスクが架けた橋は十分に立派だと思おう。

おすすめ音源

メンデルスゾーン&ゲーゼ：八重奏曲
 ラルキブデリ&スミソニアン・チェンバー・プレイヤーズ(SONY CLASSICAL)

Spotifyなど、ストリーミングサービスでも聴けます!

ラルキブデリはバロック・チェロの名手として知られるアンナー・ビルスマを中心としたアンサンブル。メンデルスゾーンとゲーゼの師弟コンビの八重奏曲を収めている。全員ガット弦を張ったストラディヴァリウスを用いた演奏として話題を呼んだ1992年の録音。フレッシュでパッションも豊か、はつらつとした喜びにあふれる。